

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 太田小学校
校長氏名	市川 哲哉
作成日	令和5年3月10日

1 教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え、正しく生きぬく子どもを育成する。

	豊かな心の育成	確かな学力の向上	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶をした人数の割合（95%） 掃除を頑張った人数の割合（95%） 読書が好きである人数の割合（80%） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で自分の考えを伝えることができた人数の割合（80%） 週1回以上、自主的に家庭学習を行う人数の割合（80%） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で運動している人数の割合（80%） 引き渡し訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよくわかると答える人数の割合（90%） 各学年で地域との交流を授業の中に入れるようにする。
重点目標 【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然と挨拶をする子 ◎掃除を愉しむ子 ・読書が好きな子 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「対話的活動」を大切に授業の推進 ・自らの課題を追及していく子 ・基本的な知識及び技能のある子 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ・保健指導の充実 ・危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校からの積極的な情報発信 ◎家庭や地域との連携の充実 ・地域資源活用の推進
取組の状況 【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に各学級週当番制で挨拶運動を行った ・拭き掃除の徹底を行った ・学期に1回各学級で読み聞かせボランティアの方の読み聞かせが行えた ・学校図書館を常時開放し、司書による児童図書の整理で、利用しやすい図書館が実現した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の工夫とゆきぶり発問などの工夫によって、授業を自分事となるように工夫した ・対話的活動を取り入れた授業を意識し、研究授業を実施した ・太田タイムにおいて語彙を増やす等、基礎・基本の定着を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ・風の子活動（縦割り班活動）を行い、運動する機会を増やした ・保健指導や保健便りを通して、健康への意識を高めた ・危機回避能力を育成するために避難訓練や交通安全教室を計画的に行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種便りやHP等を通して、積極的に学校の情報を発信した ・可能な限りゲストティーチャー等の人材を活用した
取組の成果と課題（評価） 【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく挨拶ができる児童は低学年で71.3%、中高学年で82.6%だった ・掃除を一生懸命にできた児童は96%を超えた ・読書が好きと答えた児童は、低学年で86%中高学年で78.2%だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを進んで伝えることができたと答えた児童は低学年で73.2%中高学年で67.8%と指標には届かなかった ・ペアやグループでの活動を授業の中に意識的に取り入れた ・太田タイムでは、語彙力や対話力の向上に向け取り組めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動制限がある中、工夫して体育の学習に取り組んだ ・運動場で遊ぶ児童が多い ・縄跳びに取り組む児童が多い ・引き渡し訓練を実施した ・激しい雷の日に急遽引き渡しを行い、今後の参考になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えしていると答えた保護者は87.3%だった ・交通安全指導行ってくれている方に感謝の気持ちを伝える授業を行えた ・育生会主催のイベントは、役員の方々のお力で開催することができた ・HPによる発信数は減ってしまった
改善方法 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書数を増やすことも含め児童が来たくなる学校図書館にするため環境改善により一層努める ・児童会や委員会がより児童主体の活動になるように児童の意識を高めるよう取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3つの対話」を対話的活動と位置づけ、対話の三本柱「対話の成立」「対話の必然性」「対話の深まり」を大切にする ・系統性を重視して太田タイムの取り組みを共有化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・風の子活動の内容を見直し、より充実したものにする ・引き渡し訓練等、避難訓練の機会を増やし防災教育と共に計画的に実施していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業の様子や児童の作品等の紹介をHPに積極的に載せる ・学校便りを自治会ごとの回覧板で見てもらっているが、児童から発信する機会をもちたい ・地域の方々とのつながりを絶たないようにする

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・風の子活動のほかにも、学年間などで、異学年交流の機会を多く設定したい ・GIGAスクールパソコンを学びのツールとしてもっと活用していけるよう、教員研修を増やしたい
